

平成26年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立野々市市倫高等学校 No.1

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度への取り組み(改善策等)
<p>1 生徒に学力を身につけさせるため、教員間の学び合いを通して授業内容の充実に努めるとともに、家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質向上に努める。</p>	<p>① ICT機器の活用を通して、工夫された授業を展開し、学習効果の向上をめざす。</p>	<p>授業にICT機器を活用している教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満</p>	<p>学校評価(教職員) ◎教科での研修を活発に行い、授業にICT機器を活用している。 ①よくあてはまる 26.9% ②ややあてはまる 42.3% ③あまりあてはまらない 26.9% ④まったくあてはまらない 1.9% ⑤分からない、未記入 1.9% ①+② 前期53.8% D評価 → 後期69.2% C評価</p>	<p>本校では、積極的なICT機器の活用を目指し、全教員による研究授業実施など、授業改善に継続的に取り組んでいる。さらに、今年度の教科指導訪問の研究テーマを「ICTの効果的な活用」と設定し、研究授業はもとより、公開授業でも多くの授業でプロジェクター等を活用するなど、学校全体としてICT機器を活用する機運が高まってきた。しかし、依然として約28.8%の職員が③及び④と回答している。次年度は、全職員が、①及び②と回答するよう取り組みたい。</p>
		<p>ICT機器の活用により主体的に取り組み、学習効果が高まると感じている生徒が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>学校評価(生徒) ◎ICT機器を活用した授業により、学習効果が高まった。 ①よくあてはまる 24.0% ②ややあてはまる 45.5% ③あまりあてはまらない 21.9% ④まったくあてはまらない 6.9% ⑤分からない、未記入 1.7% ①+② 前期66.5% D評価 → 後期69.5% D評価</p>	<p>①+②の値は前期と比較して3ポイント上昇した。学年別では1、2年生は若干下がったが、3年生は前期46.9%から後期59.9%と大幅に上昇した。これは、9月後半に3年生の教室にも備え付けのプロジェクターが設置され、ICT機器を使用した授業の頻度が増えたことが要因だと考えられる。次年度は充実した設備を有効に活用し、更に学習効果を高める工夫が必要である。</p>
	<p>② 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。</p>	<p>1、2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>学習時間調査 平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒の割合は、 1年 前期43.9% D評価 → 後期(通年)47.0% D評価 2年 前期83.3% A評価 → 後期(通年)84.4% A評価</p>	<p>前期(4月～7月)の調査から後期(通年)(4月～12月)までに、1年生は3ポイント上昇、2年生は若干上昇した。1年生はD評価、2年生はA評価であった。後半のみの集計は行われていないが、この結果から、1年生はある程度の伸びがあったことが推定できる。1年生については、授業と連動した家庭学習を推進し、課題の質のみならず量の充実をはかり、予習・復習の習慣化を図ることで、学習時間を増加していく必要がある。</p>
	<p>③ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。</p>	<p>1、2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 35人以上 D 35人未満</p>	<p>1月進研記述模試 偏差値54以上の生徒は、 1年 61名 A評価 2年 34名 D評価 ※7月進研記述模試 1年 39名 C評価 2年 42名 C評価</p>	<p>1、2年生とも偏差値54以上の生徒数は前年度より増加した。特に、1年生は前年同期27名から61名と大幅に増加し、A評価となった。成績の分布は、1、2年生とも、平成22年度入学生とほぼ同じか、若干上回っている。次年度も学習指導や進路指導等に教員一丸で取り組み、平成22年度入学生以上の結果を出すよう努めたい。</p>
<p>④ 論理的な思考力を身につけ、考えたことを主体的に表現し、相手に伝えることができるようにする。</p>	<p>朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>学校評価(生徒) ◎朝学習に対して積極的に取り組み、学力や教養が身についた。 ①よくあてはまる 22.4% ②ややあてはまる 51.0% ③あまりあてはまらない 22.0% ④まったくあてはまらない 4.3% ⑤分からない、未記入 0.2% ①+② 前期72.2% B評価 → 後期73.4% B評価</p>	<p>前年度までの調査内容に「学力や教養が身についた。」という内容を追加したため、前年度との比較は難しいが、①+②の値は、前年度末90.6%と比較すると大幅に下がった。朝学習を効果的に運用するため、内容の検討・位置づけの見直しなどをを行い、短い時間を継続的・効果的に活用し、A評価を目指したい。</p>	
		<p>論理的思考力をつけるための指導を授業に取り入れ、考査にも出題している教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>学校評価(教職員) ◎思考力、判断力、表現力を育てる指導を授業に取り入れ、考査にも出題している。 ①よくあてはまる 44.2% ②ややあてはまる 48.1% ③あまりあてはまらない 5.8% ④まったくあてはまらない 0.0% ⑤分からない、未記入 1.9% ①+② 前期88.5% A評価 → 後期92.3% A評価</p>	<p>前年度までの調査内容に「考査にも出題している。」という内容を追加したため、前年度との比較は難しいが、①+②の値は、前年度末92.4%とほぼ同じ値であった。教科指導訪問により「論理的思考力や発信力の向上」「授業と家庭学習の連動による学習時間の増加」などの課題が洗い出され、これらを改善するため、学年や教科毎に取り組み、校内公開授業ではそれらを意識して授業・整理会を行っている。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にプロジェクター等を利用することが、苦手意識を持った生徒の意欲の喚起に繋がる。継続して取り組んでほしい。 ・生徒による授業評価で、理科や地歴公民の評価が高いのはICT活用の成果なのか。他の教科でも、工夫を凝らした授業を行って欲しい。 ・8校連携事業での取り組みが、きちんと生徒にフィードバックできるようにしてほしい。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善及び授業力向上のため、次年度もICTを利活用した授業研究は最重要課題として取り組んでいく。 ・多様な生徒に対し、学力のみではなく、その他の面でも認め、伸ばす教育の実践に努めていく。 ・わかる授業、意欲を喚起する授業を目指し、8校連携事業などにも積極的に取り組むことで、授業力向上を推進していく。 			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度への取り組み(改善策等)
<p>2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。</p>	<p>① 進路検討会を充実させ、それを基にして生徒面談を行い、1ランク上の志望をもたせることにより学習意欲と学力の向上を図り、進路希望の実現率を高める。</p>	<p>模擬試験の各教科(科目)の結果が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満</p>	<p>1月進研記述模試 各学年の科目毎の平均偏差値は、 1年 国語 51.0 A評価 数学 49.5 B評価 英語 47.6 C評価 2年 国語 49.6 B評価 数学 47.6 C評価 英語 46.9 C評価 ※7月進研記述模試 1年 国語 50.9 A評価 数学 48.1 B評価 英語 46.4 C評価 2年 国語 49.5 B評価 数学 46.6 C評価 英語 46.7 C評価</p>	<p>前年度同期との比較では、1,2年生とも国語の平均偏差値が大きく上昇(1年生46.7から51.0,2年生47.0から49.6)した。1年生の数学・英語は若干の上昇、2年生の英語は微増であった。全体的には、国語・数学・英語の順に評価が低くなっている。平均偏差値を上げるには、上位の生徒数の増加だけではなく、中下位の生徒に対する基礎・基本の定着のための強い取組を図る必要がある。</p>
		<p>国公立大学合格者数が A 75人以上 B 70人以上 C 60人以上 D 60人未満</p>	<p>国公立大学合格者数 55名 D評価 金沢4,富山21,福井1,新潟4,岐阜1,上越教育1,石川県立4,県立看護2,富山県立2,福井県立6,他9</p>	<p>前年度と比較すると、国公立大学の合格者数は7人増加し55名となったがD評価であった。そのうち現役合格者は54名となり、一昨年の現役合格者56名に迫る現役合格者を出すことができた。今年度はセンター試験での得点が伸びずに、このような結果になったが、新課程理科の対応も含めて、今後も、面談等で一つ上の目標を持たせ、模試結果等を分析しながら、補習・添削を充実させていく必要がある。</p>
		<p>難関私立大学合格者数が A 25人以上 B 20人以上 C 15人以上 D 15人未満</p>	<p>難関私立大学合格者数 6名 D評価 立命館3,関西2,同志社1</p>	<p>前年度と比較すると、大幅に難関私立大学合格者が減少した。成績上位者の難関私立大学への志望が少なかったことと、文Ⅱコースからの受験者が激減したことが原因と思われる。また、英語などの2次力が伸びず、受験した生徒が思うように合格できなかったことも原因の一つであった。地元志向・安全志向が続く今日において、県外私立大への受験生が減る中、広い視野と高い志望を持たせる指導と、文Ⅱコースを中心とした、2次力のレベルアップが必要である。</p>
	<p>② 時期に応じたクラス全体の指導や個人面談などをきめ細かに行き、生徒の進路意識を高め早期に目標を設定させる。設定した目標実現のため、自ら学習時間を確保するよう意識付けを行う。</p>	<p>進路指導により、(1年)目標とする大学が決まっている(2年)志望校が決まっていると答えた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>学校評価(生徒) ◎進路指導により、(1年)目標とする大学が、(2年)志望校が 1年 2年 ① 決まっている 30.8% 11.2% ② ほぼ決まっている 26.1% 43.7% ③ あまり決まっていない 34.9% 26.5% ④ 決まっていない 7.9% 18.7% ⑤ 分からない、未記入 0.3% 0.0% ①+② 1年 前期40.0% D評価 → 後期56.9% D評価 2年 前期39.9% D評価 → 後期54.9% D評価</p>	<p>1,2年生とも前期と同じD評価であったが、①+②の値は、前期と比較すると大幅に増加した。ホーム担任は節目においてテーマを絞り面談を行ったり、面談以外にも生徒への声かけを頻繁に行い、生徒把握に努めてきた。さらに、進路講演会や大学訪問なども企画し、目標の具現化を進めてきた。最終的に各学年とも80.0%を超えるように継続して取り組んでいきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生のオリエンテーションは充分時間をかけて取り組んでほしい。最初が肝心である。 ・1年生に対する進路講演会は、生徒の疑問点を把握しそれを元にして内容の充実を図ってほしい。また、身近な先輩である2年生が体験談を話す形態も良いのではないかな。 ・2,3年生に対する指導も、それぞれの学年のニーズにあった内容をしっかり把握して行うべきである。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に早期に高い進路目標を持たせ、3年間を見通して明確な目標を持ち活動することができるよう、サポート体制の更なる充実を図る。 ・学力向上を目指し、面談のクオリティを上げ、学習習慣の定着(予習・授業・復習のサイクルの確立)や苦手科目の克服を図り、一人ひとりを伸ばす教育の実践に努める。 ・進路指導では新入生だけでなく、上級生に対する指導も、それぞれの学年のニーズをしっかりと把握し、内容の充実を図り、きめ細かい指導に磨きをかけていく。 			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度への取り組み(改善策等)	
3 部活動や生徒会活動の活性化に努め、チャレンジ精神の涵養を図るとともに、喜びや感動を共有できる教育活動を展開し、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 3回未満	学校評価(保護者) 本年度4月より学校行事やPTA活動で来校した回数が ① 10回以上 ② 8回以上 ③ 6回以上 ④ 4回以上 ⑤ 2回以上 ⑥ 分からない、未記入 平均 前期2.2回 D評価 → 後期(通年)3.1回 C評価	前期は「PTA総会」での各学年毎の説明会・講演会等に工夫を凝らし、広報も複数回行った。そのため、保護者の参加数が昨年度を大きく上回った。後期も「文化祭」、「学校公開」、「大学訪問」等に広報活動を行ったが、来校回数は伸び悩み、奇しくも前年と同じ値(3.1回)となり判定はC評価となった。次年度はPTA役員と知恵を絞り、多くの保護者が来校するように働きかけたい。	
	② 部活動の加入をうながし、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	1,2年生の部活動加入率 年度初 1年 99.0% A評価 2年 83.5% C評価 全体 91.7% A評価 12月 1年 91.9% A評価 2年 83.3% C評価 全体 88.0% B評価 【男 93.4% 【男 80.2% 【女 90.6% 【女 86.1%		年度初と比較すると1年生の値が大きく減少(7ポイント)したため、全体ではB評価となった。この値は23年度82.6%、24年度84.8%、25年度86.7%と順調に上昇してはいるが、1年生は入学時からの途中退部者が多く、2年生になると更にその数が増加している。これらの生徒に対し、適切な対応をしていかなければならない。
		チャレンジする目標を達成できた部の割合が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満	チャレンジする目標を達成できた部の割合 70.8% A評価		チャレンジする目標を達成できた部の割合は、昨年度(86.7%)から大きく下がったが、運動部・文化部を問わず、活気ある活動がなされ、部顧問も熱心に指導している。目標を達成できなかったと答えた部は、けっして活動状況が悪いわけではなく、高い目標に向かい精進したが、結果に結びつかなかったと思われる。
	③ 明倫祭の外部公開を継続し、模擬店数の増加など、イベントの企画について検討を行う。	1日目の来場者数が A 600名以上 B 500名以上 C 450名以上 D 450名未満	明倫祭(1日目) 来場者数計 659名 A評価 一般 177名 保護者 328名 卒業生 89名 招待者 65名 ※一昨年度 450名 C評価 昨年度 560名 B評価	本年度の明倫祭の来場者は、本校開催の1日目が659名、県立音楽堂での2日目が345名、総計1004名となり初めて1000名を超えた。保護者・卒業生は例年並み、招待者は例年より若干の増であったが、一般の来校者が大きく伸びたのが要因である。これは、開催の宣伝効果と共に、夏休み末の土日開催及び一般公開が3年目となり、来場者を積極的に招き入れる本校の方針が広く認知されてきたためと考えられる。	
	④ 本の読み聞かせ、本の紹介カード展示などの図書委員会活動を地域と連携することでチャレンジ精神の涵養を図る。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間6回以上 B 年間5回 C 年間4回 D 年間4回未満	地域と連携した図書委員会活動の回数 6回実施 A評価		昨年度は5回でB評価であった。今年度は保育園での読み聞かせや、小学校の「放課後チャレンジクラブ」が来校した際の読み聞かせ、エコバック作りは生徒の自信になったようである。また、野々市市立図書館主催の「ボランティア養成講座」にも参加したが、生徒は熱心に取り組み、主催者からも高評価を受けた。本の紹介カードの展示は、秋から冬にかけて野々市市立図書館で2回行った。次年度は内容の充実を図り、更なる地域連携に努めたい。
⑤ 体育授業時に運動量を確保し、特に持久走の向上を図る。	1,2年生の新体力テスト(シャトルラン)で、1回目より向上した生徒の割合が A 70%以上 B 65%以上 C 60%以上 D 60%未満	新体力テスト(5月,11月) 1回目より向上した生徒の割合が 1年 71.9% A評価 2年 57.1% D評価 全体 65.2% B評価 【男 76.7% 【男 58.7% 【女 67.6% 【女 55.7%		1回目より向上した生徒の割合は、全体では24年度59.2%、25年度59.6%とほぼ一定に推移してきた。今年度は1年男子の向上率が特に高く、全体の評価を大きく上げた。学年間の比較では、体力・運動能力では1年生より2年生の方が高いにもかかわらず、2年生の値が前年度と同様低かった。これは、運動部の加入率の影響が大きいと考えられる。次年度も、継続的に実施し、更なる効果を上げる工夫と改善が必要である。	
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 学校外での活動により生徒は学ぶことは多い。地域連携活動は非常に大切である。部活動単位での参加が多い様だが、部活動に入っていない生徒の参加も推進して欲しい。 野々市市以外から通学している生徒が多く、その生徒達の野々市市に対する意見も大切である。生徒会等で活発な意見が出るような活動を工夫してほしい。 文化祭には卒業生の保護者の参加が多かった。また、大変活発に活動している生徒を見て、これまでの明倫高校のイメージが変わった。感動した二日間であった。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> 信頼される開かれた学校づくりのため、広報活動を充実させ、家庭や地域社会との共通理解を図る。また、ホームページの更なる充実にも努め、情報の提供・発信を行う。 部活動顧問と教科担任との連携を重視し、部活動と学習活動の両面でバランスのとれた全人格的教育の実践を目指し、粘り強く努力する人材の養成を図る。 「町ぐるみ清掃」「じょんから祭り」など野々市市主催の多くの行事に参加し、学校と地域・保護者・市役所などとの連携を更に推進する。 			

重点目標	具体的取り組み	達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度への取り組み(改善策等)
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する心豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとすることができたと答えた生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学校評価(生徒) ◎学校生活において、あいさつを自分からすすんで、大きな声で ① することができた 71.2% ② できなかった 28.0% ③ 分からない、未記入 0.8% ① 前期68.8% C評価 → 後期71.2% B評価	本校では野球部やバレー部及びPTAが朝の挨拶運動に継続的に取り組んでいる。また、教員も折りを見てそれに参加している。①の値は24年度73.6%、25年度64.0%と、前年度はかなり落ち込んだが、今年度は24年度並に回復した。目標の80.0%を目指し、挨拶がしっかりできる生徒の育成に向け継続して取り組んでいく必要がある。
	② 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学校評価(生徒) ◎交通ルールを遵守している。 ① よくあてはまる 65.9% ② ややあてはまる 30.3% ③ あまりあてはまらない 3.3% ④ まったくあてはまらない 0.6% ⑤ 分からない、未記入 0.0% ①+② 前期93.9% A評価 → 後期96.2% A評価	昨年度(93.8%)から若干ポイントが上昇した。この結果から、生徒の交通ルール遵守への意識は高い水準を維持していることがわかる。しかし、自転車等の事故報告件数は1月末現在で13件(昨年度18件)ある。自転車左側通行を定めた改正道路交通法や、加害者になった場合多額の賠償金を請求される可能性の周知徹底を行い、事故件数ゼロを目指したい。
	③ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。情報の収集・共有を密に行い、困難を抱えている生徒に対して早期に対応・支援する。	生徒の変化に対して素早く察知し、対応することができた教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	学校評価(教職員) ◎生徒の変化に対して ① 素早く対処し、解決に至った 15.4% ② 素早く察知し、対応することができた 76.9% ③ 素早い対処ができず、解決が遅れた 3.8% ④ 発見・対処が遅れた 0.0% ⑤ 分からない、未記入 3.8% ①+② 前期86.5% B評価 → 後期92.3% A評価	本校では相談室と学年及び部活顧問等との密な情報共有・問題への早期対応、生徒の抱える問題理解のための情報発信、生徒支援のため外部機関と適切な連携を行っている。①+②の値は、前期と比較すると大幅に増加した。また、集計方法が前年度までと異なるが、未回答者が3.8%いることを考慮すると概ね前年度(98.1%)並であった。いじめや事故等へ適切に対応し、安心・安全な学校づくりのため、今後も継続して取り組んでいきたい。
	④ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促す。	ボランティア活動に、参加した生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	学校評価(生徒) ◎今年度ボランティア活動に ① 自発的に複数回参加した 5.9% ② 自発的に参加した 7.9% ③ 参加した 25.2% ④ 参加しなかった 60.4% ⑤ 分からない、未記入 0.6% ①+②+③ 前期53.9% B評価 → 後期39.0% D評価	質問内容から評価は下がらないはずであるが、後期は前期より評価が下がった。これは、生徒が後期のみ限定して回答したことが原因と思われる。次年度は問いかけを工夫したい。また、次年度は①+②の値(自発的な参加者)が50.0%を超えるよう働きかけてきたい。
	⑤ 図書便りなどによる図書案内、朝読書、ビブリオバトルなど各学年団と連携した読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。各学年団と連携し、生徒に読書に親しむ習慣を身につけさせる。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 7.0冊以上 B 6.0冊以上 C 5.0冊以上 D 5.0冊未満	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数 3.9冊 D評価	一昨年度は7.0冊でA評価、昨年度は5.8冊でC評価であった。今年度は8月末1.0冊、1月末3.7冊、年度末3.9冊と順調に増加してきたがD評価であった。生徒アンケートでは、1年生の読書する習慣が身に付いてきていると思う生徒が前期71.6%から後期44.7%と大幅に減少するなど課題も多い。次年度は図書委員会の活動を充実させ、広報と展示にさらなる工夫を凝らすこと、学年と連携し、総合的な学習の時間等を利用して、図書館利用を図る取組を推進していきたい。
	⑥ 環境にやさしい行動を、意識して取り組むことができる生徒の育成を図る。	学校版環境ISO意識調査でゴミの分別に心がけている生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	学校評価(生徒) ◎学校や家庭で環境にやさしい取組を行っている。 ① よくあてはまる 28.1% ② ややあてはまる 50.8% ③ あまりあてはまらない 18.9% ④ まったくあてはまらない 2.2% ⑤ 分からない、未記入 0.0% ①+② 前期81.9% A評価 → 後期78.9% B評価	本校では身近な生活環境の問題について意識を高め、環境にやさしい行動ができる生徒の育成を目指した取組を行っている。①+②の値は、24年度58.5%、25年度79.2%と、前年度に引き続き高い値となった。教室移動時の消灯及びスチームバルブの閉栓や晴天時の窓側消灯への意識を更に高め、①回答の割合を増やしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルはプレゼンテーション能力を高めるためにも必要である。積極的に取り組んで欲しい。 ・読書量増加に対する取組で、図書紹介のポップなどに紹介者の写真を付けてみてはどうか。 ・野々市市内の小中連携・中高連携を推進するとともに、学校と地域・保護者・市役所などとの連携も推し進めてほしい。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の様々な活動の質の向上を目指し、朝の挨拶運動やボランティア活動を推進し、地域から愛され、活力ある学校づくりの推進と社会にとって有為な人材の育成を図る。 ・地域との連携はある程度成果が出ているが、市内中学校との部活動連携や部、同好会、生徒会による社会福祉施設の訪問などをさらに推進する。 ・オープンスクール・高校説明会などを通して積極的に中学校との連携を図っていく。 			